



小美玉
シテイ
ダイヤモンド
見つける。
みがく。
光をあてる。

もっと小美玉を語りたくなるマガジン

2024年
令和6年

10

広報
おみたま
第223号

contents

[特集] 大人いきいき	子どもすくすく	2-5
	わだい	6-9
TOPICS		10-14
	四季の歌	15
4コマ小美玉暮らし		16



大人
いき
いき

子ども
すく
すく

広報
おみ
たま
第223号

今月の表紙



市内の各学校では、多くの地域住民が子どもたちの成長を手助けする活動に参加しています。特別な知識やスキルはいりません。豊富な人生経験と、子どもに寄り添う気持ちがあれば、誰でも活躍の場があります。ぜひあなたも子どもの成長を支える地域づくりに参加してみませんか？

大人いきいき 子どもすくすく

～地域×学校のちょっといい関係～

「私たちのまちを、もっと元気にしていくためには？」

「地域の宝である子どもたちの力になりたい」

そんな想いを持って学校に通う地域の大人たちはいきいきと輝き、大人の本気に触れた子どもたちもまたすくすくと育つ。このような地域を元気にする好循環を生み出そうと、学校を核とした地域づくり(地域学校協働活動)が動き出しています。

顔の見える関係づくりを

▶地域学校協働活動について
詳しく知りたい方へ
市内で行われている地域学校協働活動の内容は、広報おみたま2024年1月号(8～9ページ)で詳しくご紹介していますので、併せてご覧ください。

広報おみたま
2024年1月号 ▶
ID 010370



現在、市内学校の授業で子どもたちの学習支援に参加する人が増えています。昨年度は約500名のボランティアが家庭科の学習支援に参加し、子どもたち一人ひとりの「できた」をサポートしました。他にも、登下校の見守りや学校の環境整備など、多くの人が「子どもの成長を支える地域づくり」に参加しています。このように地域全体で子どもたちの成長を支え、学校を核に住民同士のネットワークを作っていく活動を地域学校協働活動といい、全国の地域で取り組みが始まっています。

今回の特集では、先進事例として注目されている小美玉市の地域学校協働活動がどのような取り組みなのか、地域と学校をつなぐ「コーディネーター」を担う方々の話を通してご紹介します。

地域と学校をつなぐコーディネーターに聞きました

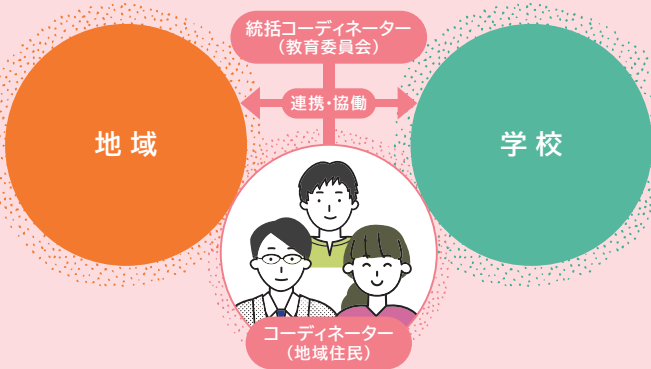
人がつながる温かいまちとは

コーディネーターとは？

▶▶▶ 地域と学校をつなぐ橋渡し役



小美玉市教育委員会 生涯学習課
社会教育主事(統括コーディネーター)
みさわ ひでお
三澤 秀生さん

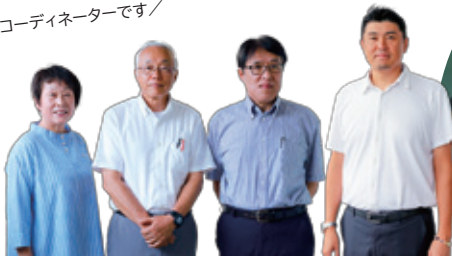


コーディネーターは、「学校を核とした地域づくり」の活動を行うために地域と学校の橋渡しをする方々です(▶5ページ)。市内では学校ごとに地域住民の中から3名ほど(計25名)が委嘱され、学校運営協議会やPTA、学区コミュニティ、地域住民などと連携して活動しています。

社会教育主事は、地域住民の学習活動の支援を行う専門的教育職員として、コーディネーターとともに学校と地域のつなぎ役を担っています。

Case #1 小川南小学校・中学校

コーディネーターです！



たむら ともこ 田村 智子さん
たかの かずゆき 高野 和之さん
ふじた としひろ 藤田 恵弘さん
ないとう ゆういちろう 内藤 裕一郎さん

家庭科の実習前に、学習支援に来てくれたボランティアの皆さんを児童に紹介。話しやすい雰囲気を作っています。

人と人とのつながりが地域への愛着に

藤田さん: 学校が目指していることと、地域の私たちが無理なく楽しみながらできることをすり合わせて実現させ、地域の宝である子どもたちの力になりたいと考えています。今年7月には小学1～2年生の体力テストに保護者やコミュニティの方々など20名のボランティアが参加し、記録測定を行いました。短時間で正確な測定ができたのはもちろんですが、大人からの励ましで記

録が伸びた子やほめられて喜ぶ子がたくさんいました。ボランティアの皆さんも、子どもとの交流を楽しみながら参加してくれました。つながりが希薄化する時代だからこそ、地域に愛着を持つ子どもたちを育てることが大切だと思います。これからも、「できる人が、できるときに、できることを」をモットーに、子ども、先生、住民みんなが笑顔になる仕組みを継続していきたいです。



体力テスト測定の支援



学習支援ボランティアに参加した
おおつか よしろう
大塚 好蔵さん

たちばなコミュニティを代表して参加し、反復横跳びの時間計測を担当しました。たくさんの方に見守られながら、子どもたちは楽しそうに、一生懸命に取り組んでいました。私も楽しい時間を過ごせました。

Case #2 納場小学校



ふじおか さとみ 磯部 公一さん 磯部 公一さん 荒川 英一さん

「コーディネーターです」



6年生の体育で実施した、外部の陸上コーチを招いての走り方教室。速く走るための理論と実践練習を学びました。

気軽にあいさつできる関係づくりを

磯部さん: 学校と住民、そして住民同士をつなぐのが、私たちコーディネーターの役割です。家庭科や図工の学習支援に入ってくれるボランティアの募集や、校内に緑が多く管理が大変だという声を受けて、現場を見て回り、課題箇所の把握と共有をしています。学校はこの地域に住むみんなのもの。住民同士のつながりを活かして、少しずつでもみんなを支えていけたらいいなと思います。

毎年恒例の納場っ子まつりは、今年は11月15日(金)に開催します。先生方や学校運営協議会と連携し、保護者や地域の方に体験ブースのご協力をお願いしています。子どもたちにとって多くの学びや思い出になれば幸いです。地域に住む私たちと、子どもや先生が、お互いに気軽にあいさつできるような、話しやすい関係づくりを目指して、これからもつなぐ役割を担ってまいります。



図工の学習支援 カッターの使い方



学習支援ボランティアに参加した
よこやま ようこ
横山 洋子さん

図工の支援には初参加でした。カッターを安全に使えるよう見守りながら、会話は楽しんでました。普段は登下校の見守りをしているので、顔を覚えて声をかけてくれる子もいて、うれしく思います。

Case #3 玉里学園義務教育学校

「コーディネーターです」



こだま ともこ 小玉 知子さん 羽鳥 敏政さん 菊地 かずなさん



初めて校庭で開催したスポーツフェスティバル。地域の皆さんが受付や誘導などに協力してくれました。

子どもの成長を支える地域の大人たち

菊地さん: 玉里学園のコーディネーターは、子どもの学習支援や登下校の見守り、学校行事に向けた話し合いの場などで、学校・保護者・住民ボランティアの間を取り持つ調整役です。今年5月のスポーツフェスティバル(運動会)は、それまでタスパだった会場を校庭に移す初の試みで、駐車場や暑さへの対応をどうするかといった課題がありました。そのため、学校・PTA・コミュニ

ティが会議を重ねて、駐車場の確保や日陰を作るためのテントを用意するなどの対策をしました。多くの皆さんの協力を得て、無事に開催することができてよかったです。10月には地域主催の防災フェスを玉里学園で初開催します。会議には多くの住民の皆さんが熱心に参加してくれています。住民同士の仲がよく、つながりが強いことも安心感につながっていると思います。



家庭科の学習支援 裁縫の授業



学習支援ボランティアに参加した
みうち やすこ
身内 ヤス子さん

主宰する着付け教室の生徒から誘われ、ミシンでトートバッグを作る授業の支援に参加しました。進み具合に応じて声をかけながら、最後は全員がバッグを完成させていました。次は別の学校でも参加予定です。

あなたも参加してみませんか？

県内外から注目を集める 小美玉の学校を核とした地域づくり



詳しくはこちら▶
ID 009163

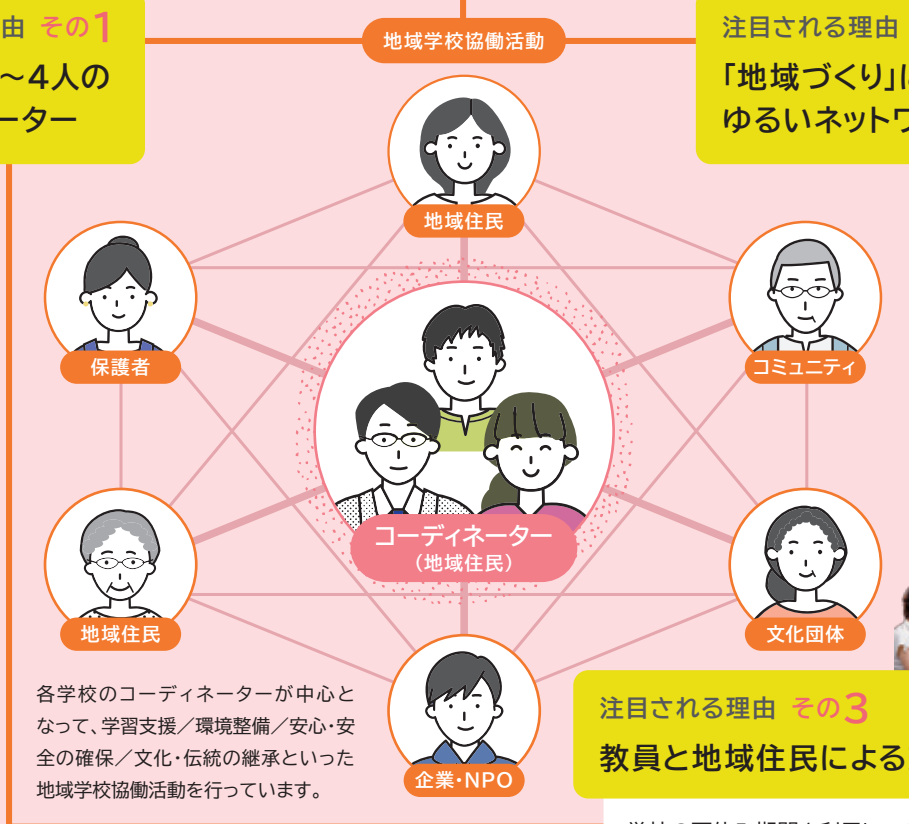


注目される理由 **その1**
各学校に3~4人の
コーディネーター

学校ごとに、年代も経歴も多様なコーディネーターを3~4名委嘱。それぞれが持つ地域内のネットワークを活かして、独自の取り組みを行っています。

注目される理由 **その2**
「地域づくり」に共感する
ゆるいネットワークを形成

子どもの学びをサポートするとともに、集まった住民同士の交流が深まるよう振り返りの時間を設けています。同じ目的を共有する人同士のつながりが生まれています。



各学校のコーディネーターが中心となって、学習支援/環境整備/安心・安全の確保/文化・伝統の継承といった地域学校協働活動を行っています。

注目される理由 **その3**
教員と地域住民による交流会

学校の夏休み期間を利用して、教員と住民が子ども・学校・地域について話す交流会を開催し、互いに顔の見える関係づくりを進めています。

ワイワイ、ガヤガヤ！ コーディネーターの研修交流会に潜入

9月18日、市内各学校のコーディネーター14名が、他地域の事例を学ぶ研修に参加しました。地域学校協働活動の先進地である、牛久市立ひたち野うしく小・中学校のコーディネーター 芦田 亜里香さんが講師を務め、活動の心構えや、牛久市の取り組み事例を学びました。芦田さんは「子どもたちが地域を担う大人になっていくというビジョンを、地域・学校・保護者が共有することが大事。顔の見える関係から地域の安心は作られる」と語りました。



▲講義後、コーディネーター同士で今後の課題や展望などを話し合い、交流しました。



視察に来ました

常磐大学
総合政策学部准教授
ひつもと まみよ
檀本 真美代さん

「地域の大人が自分たちのことをこんなに真剣に考えている」という姿を見た子どもたちは、いずれ地域で同じ役割を担ってくれるはず。今後は教育に関心のない人たちがどう巻き込むか、きっかけ作りが行政やコーディネーターに期待されると思います。